

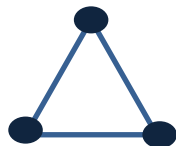
無数データから機会をとりだす

情報、データは多量にある。無数にある。異なる現象がぶつかれば、さらに新たな現象が産まれる。

一つの現象には、複数の背景がある。背景を支える習慣、文化に関わる原則がある。現象を認識する道具及び材料は知識であり、組織の特異、目的である。特異、目的が曖昧であれば、現象を組織活動の機会にできなくなる。組織人材、組織特異は組織状態に応じて抽出されている必要がある。

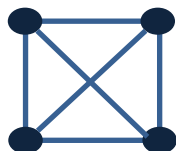


2人が寄れば、互いが刺激合って、一人、一つずつで2つの現象が起こる。



3人が寄ると刺激が互いにできで、起こり得る現象が $2 \times 2 \times 2 = 8$ 起こり得る。

- コラボレーションができる最大数は8人だと言われている。
 - 選択できる選択肢の最大数は7項目だと言われている。
- 共に実験から導かれた数である。



4人が寄ると

$$2^{\frac{(4-3) \times 4}{2} + 4} = 2^6 = 64$$

n人が寄ると

$$2^{\frac{(n-3) \times n}{2} + n} = 2^{\frac{n^2 - n}{2}}$$

の現象が起こり得る。

70億人の人がいる。半数の人が働いているとすると35億人になる。全員が一同に会することはないが、何等かの形でつながっているとすれば、nに35億が入る。膨大な現象が起こり得る。多くの人が、同類項の意志、意見を持っていたとしても、膨大さは変わらない。

- 膨大にある現象から、自らが関わり合える8つの現象を取り出すか、多数の現象を8つ程度にまとめなければならない。

《人材》

組織は多数の職種で構成されている。各職種は専門性、個人別にとらえても得意が異なっている。異なる多数の得意を一つにまとめて組織として特化した力を発揮させるようにしなければならない。各人に得意を一つにまとめて卓越性を発揮させる。放っておけば、左式のように無数の方向へと分散される。

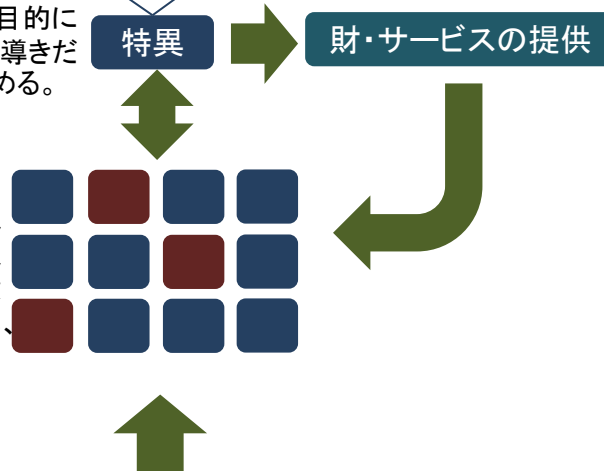


《組織》

組織ミッション、事業目的に応じて一つにまとめ、導きだされた機会に当てはめる。

《社会》

社会には、左式の如く多数の現象が現れている。社会の現象から、自組織が得意とするモノを選びだし、機会とする。



多量のデータから自組織に関連するデータを取り出す因子になるモノは組織のミッションと、人材の得意をまとめた組織の特異である。特異は意味と方向を示すキーワードである。この意味と方向を分析して抽出されている必要がある。